

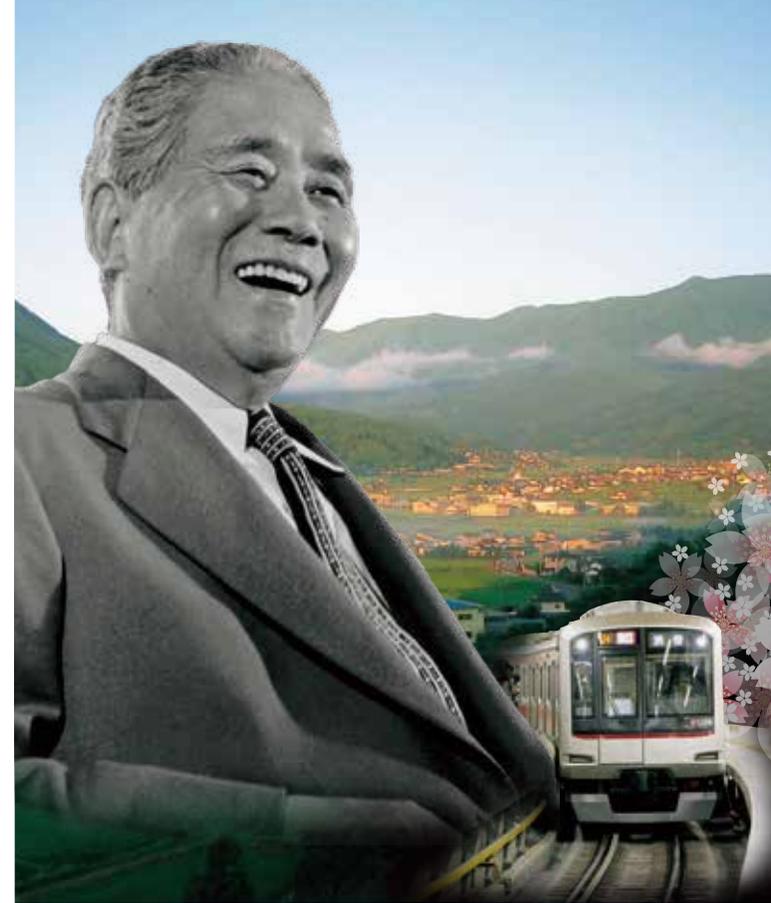
五島慶太翁77年のあゆみ

- 1882年(明治15年)0歳
小林家の次男として4月18日殿戸村(青木村殿戸)に生まれる。
(父、小林菊右衛門 母、小林寿糸)
- 1889年(明治22年)7歳
青木尋常小学校(現、青木村立青木小学校)に入学。
- 1893年(明治26年)11歳
青木尋常小学校を卒業後、浦里小学校高等科(現、上田市立浦里小学校)に入学。
- 1895年(明治28年)13歳
長野県尋常中学校上田支校(現、上田高校)に入学。
- 1900年(明治33年)18歳
松本中学校卒業後、恩師小林直次郎の紹介で青木小学校の代用教員になる。
- 1902年(明治35年)20歳
東京高等師範学校(現、筑波大学)の入学試験に合格し、英文科に入学。
この学校で校長の嘉納治五郎に出会い大きな影響を受けた。
- 1906年(明治39年)24歳
東京師範学校卒業後、三重県立四日市商業学校の英語教師になる。
- 1907年(明治40年)25歳
東京帝国大学(現、東京大学)に入学。学生時代は、寸暇を惜しんで勉強に励んだ。
- 1911年(明治44年)29歳
東京帝国大学卒業後、農商務省に入省、官僚になる。
- 1912年(明治45年)30歳
久米民之助(工学博士で二重橋の設計者)の長女、萬千代と結婚。
久米家の懇望で、久米家の遠慮の五島家(元上州沼田藩藩士の家)を継ぎ、五島慶太になる。
- 1913年(大正2年)31歳
鉄道院に転属。長野県では上田温泉電軌や飯山鉄道の鉄道建設に関わった。
- 1920年(大正9年)38歳
鉄道院を退職。
- 1922年(大正11年)40歳
目黒蒲田電鉄を設立、専務取締役役に就任。
- 1934年(昭和9年)52歳
青木小学校建築費として指定寄附。
- 1939年(昭和14年)57歳
東横商業女学校開校。五島慶太の育英事業の第一歩。昭和30年には、学校法人五島育英会を設立。
- 1942年(昭和17年)60歳
東京急行電鉄(株)取締役社長に就任。
- 1944年(昭和19年)62歳
運輸通信大臣に就任(東京急行電鉄(株)取締役社長を辞任)。
終戦後GHQ(連合軍最高司令部)により公職追放。
- 1952年(昭和27年)70歳
東京急行電鉄(株)取締役会長に就任。
- 1955年(昭和30年)73歳
大東急記念文庫を開館し、一般公開。
- 1958年(昭和33年)76歳
ふるさと、青木村殿戸区に公民館を寄付。公民館は建て替えられたが、敷地には五島慶太を顕彰する胸像が残っている。
- 1959年(昭和34年)77歳
8月14日逝去。
- 1960年(昭和35年)
五島慶太翁碑が飯山駅前に建立。
- 2020年(令和2年)4月18日
青木村に五島慶太未来創造館開館。

「青木村の先人・五島慶太 — その軌跡を未来へ —」

青木村の先人、五島(小林)慶太は、東急グループの礎を築いた実業家であるとともに、教育者として次世代の育成に力を注いだ人でもありました。また、若くして故郷を離れ多岐に渡って活躍する一方、生涯を通じて「ふるさと・信州」との関わりを持ち続けてきた人でもあります。

「五島慶太未来創造館」は、五島慶太のふるさとである青木村で偉大な軌跡を振り返るとともに、小さな山村から実業界に大きくはばたいた先人の想いを、これからの時代を生きる人々につなげていくための施設です。



五島慶太未来創造館

「青木村の先人・五島慶太 — その軌跡を未来へ —」

【開館時間】
午前9時～午後5時
(最終入館 午後4時30分)

【休館日】
毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始
(祝日が月曜日の場合は翌日火曜日が休館)
詳しくは青木村 五島慶太未来創造館ホームページをご覧ください。

【入館料】 無料

【駐車場】 青木村図書館・青木村文化会館の
駐車場をご利用ください

【アクセス】
上信越自動車道 上田菅平ICより
車で30分
長野自動車道 麻績ICより
車で30分
JR北陸新幹線 上田駅より
バスで30分

五島慶太未来創造館

〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢3270番地3
TEL・FAX 0268-49-0303
E-mail gotosozokan@vill.aoki.nagano.jp



五島慶太未来創造館ご案内

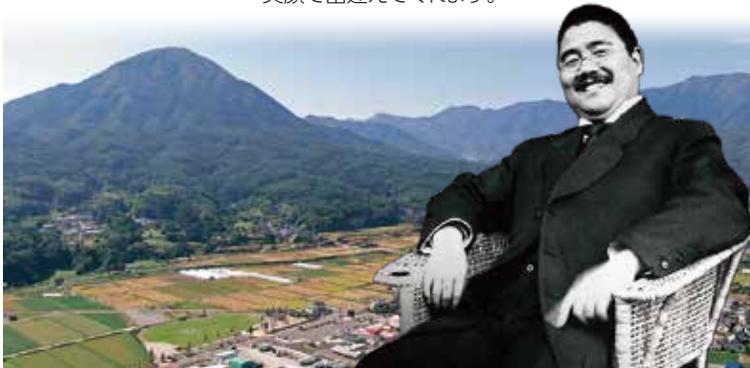


「東急玉川線(現 東急世田谷線)の80形」
「東急線の3000系」で使われていた
スポーク車輪です。
(東急株式会社 寄贈) 館外展示



ようこそ五島慶太未来創造館へ

エントランスでは、ふるさと青木村の風景の前で30代の慶太が笑顔で迎えてくれます。



五島慶太の想いを未来へ

4

～慶太の功績、そして未来へ～

慶太の功績や想いが現在を生きる人々の生活にどう繋がっているかを紹介。



東急2020系電車車両



東京都市大学世田谷キャンパス五島記念館



渋谷の街並み



亜細亜大学武蔵野キャンパス

青木村が育んだ 小林慶太

1

～勉強好きながき大将が東京帝国大学(現 東京大学)へ～

わんぱくな少年が、様々な恩人と出会い成長していく中で、日本のリーダーを志し上京するまでを紹介。体験コーナーでは平成30年(2018年)の落雷により焼失した生家をVR(ヴァーチャルリアリティ)で体験できます。



生家復元模型



青木尋常小学校卒業証書



実際に使用した教科書



VRゴーグル映像体験 (画像はイメージ)

3 ふるさと・家族への想い

～家族との絆・ふるさとへの想い～

実業家としての成功の裏にあった家族との別れと絆、現在も続くふるさととの繋がりを紹介。慶太が故郷へ宛てた直筆の手紙などを見ることが出来ます。

故郷へ宛てた手紙



小林家の人々



五島家の人々

2 事業家 五島慶太の歩み

～実業界への飛躍、そして鉄道王へ～

官僚を経て実業界に転身した慶太の、鉄道を軸にしたまちづくりなどの事業の功績や、教育者・文化人としての顔を紹介。映像コーナーでは慶太の肉声を聞くことができます。



直筆の書



慶太が築いた東急沿線の街をイメージしたNゲージジオラマ(電車模型を操作できます)



「思い出の街、渋谷」昭和39年頃の渋谷駅東口模型